



Prot. No SC-JP22-01
2022年2月25日

日本カトリック正義と平和協議会
責任司教 ウェイン・バーント司教
委員一同
賛同 社会司教委員会委員長 勝谷太治司教

声明文 ウクライナへのロシア軍軍事侵攻の中止を！

昨日（2月24日）、日本時間正午、ロシア軍がウクライナ軍事侵攻を開始しました。すでに両軍のみならず、民間人にも死傷者が出ていることが伝えられています。また、ウクライナ国境地帯にはチェルノブイリ原子力発電所があり、ロシア軍に制圧されたとの情報も伝えられ、大変心配です。今後さらに死傷者が増えること、まして核兵器が使用される事態は、何としても防がなければなりません。

ロシアのウクライナ侵攻は、国際法に反します。武力では真の問題解決はありません。戦争によっては、いかなる平和も勝ち取ることはできません。

今日は、いまから41年前、当時のローマ教皇聖ヨハネ・パウロ二世が、原爆投下から36年たった広島で『平和アピール』を発表した記念すべき日に当たります。いまいちど、そのことばに耳を傾けましょう。

戦争という人間が作り出す災害の前で、「戦争は不可避なものでも必然でもない」ということをわれわれはみずから言い聞かせ、繰り返し考えてゆかねばなりません。人類は、自己破壊という運命のもとにあるものではありません。イデオロギー、国家目的の差や、求めるものの違いは、戦争や暴力行為のほかの手段をもって解決されねばなりません。人類は、紛争や対立を平和的手段で解決するにふさわしい存在です。

（聖ヨハネ・パウロ二世 広島『平和アピール』1981年2月25日）

パンデミックや気候変動など、人類が一致して解決せねばならない深刻な問題に直面している21世紀のいま、軍事力の行使などもってのほかです。

日本カトリック正義と平和協議会は、あらゆる武力行使に反対します。ロシアとウクライナの戦争の拡大を一刻も早く止め、被害を最小限にするために、世界中の市民のみなさんに呼びかけます。いますぐ戦争をやめよと声をあげましょう。また、特に世界中の政府関係機関の方々に呼びかけます。軍事同盟による戦争抑止の考えを捨て、対話による平和構築への最大限の努力をして下さい。